

最近、ミレニアムの生徒会室にシャワールームが併設された。
ユウカ曰く、「泊まり込みで会計の仕事をしなさいといけない時に便利だから」
だそう。
近くにある24時間営業の銭湯にでも行けばいいのでは？と思ったが、あれだけ
財布の紐が堅いユウカがOKしたなら、いいのだろう。

ある朝、ユウカに野暮用があったため生徒会室を訪れたが、誰もいなかった。
いつもはユウカが来ている時間だから、あれ？と思ったが、どこかに用事でも
出来たのだろうか。
自分の机に近づく途中、ユウカの机の上にピンク色の物体があるのが目に入っ
た。
遠目では分からなかったが、机に近づくとすぐにそれが何かわかった。

ブラジャーだ♡

新品というにはあまりに乱雑に置かれているブラ♡
かわいいレース付きの、デカパイ専用サイズのブラ♡
爆乳女子に勝負下着でこれを着けてこられたら興奮待ったなしだろう♡

「まさか、ユウカのブラジャーなのか…？」

思考を巡らせていると、むわぁ…♡と女の子特有の甘い匂いがブラジャーか
ら漂ってくる。

「はぁ…♡はぁ…♡」

まともな思考をできる状態からどんどんかけ離れていく。も、もしかしたら落
とし物を拾ってとりあえず置いていただけなのかも…♡
あのユウカが自分のブラジャーを机の上に置いておくわけないし…♡ユウカ
のじゃないなら…いいよな…♡♡

「ちょ、ちょっとだけなら…♡」

ブラジャーを手に取り匂いをかいでみた♡

「ふぁぁ…♡いい匂い…♡♡」

どこかのデカパイを包みこんでいたブラジャー…♡
まるで女の子とハグしているような、ふわ～ん♡とした気持ちになる…♡♡
優しい包容力が俺を包み込む…♡これを着けている女の子は、一体どんなデカパイの持ち主なのだろう…♡♡

きっと、知らぬ間に自らのどたんおっぱいで周りにはいる男子を惑わしているに違いない…♡
視線を釘付けにし、次々と周りの男子を前傾姿勢にさせる破壊力…♡
一度でいいからこの子の生おっぱいを拝んでみたいものだ…♡

「ふう…♡ふう…♡♡」

想像を膨らませていると、ユウカの机の上に置かれていたノートに何かが書かれているのを見つけた。

『これは早瀬ユウカのブラジャー(着用済み)です♡』

「!?!?!?!」

い、意味が分からない…。いや、分かるのだが、なぜこんなことが書かれているのかが分からない…が、今はそんなことはどうでもいい…♡
これがユウカのブラジャー…♡甘～～い女の子の匂いがする…♡♡ブラジャーに顔をうずめながら、ユウカの姿を頭に思い浮かべる…♡♡

「ユウカ…♡ユウカあ…♡♡」

すぐにパンツを下ろし、オナニーを開始した♡♡
ドスケベボディのユウカを、いやらしい目つきで舐めまわすように想像上で思いつきり視姦する…♡♡

「ユウカのどたんおっぱい…♡ユウカのむちむち太もも…♡ユウカのぷりぷりデカ尻…♡」

——シコシコ♡♡シコシコ♡♡

いつもはユウカにいやらしい目で見ていることを悟られないようにしていることもあってか、より一層興奮する♡♡
ずっとコソコソ見ていたドスケベボディを、着用済みブラジャーという最高のオカズで堪能できるなんて…♡♡

「ユウカ…♡真面目な顔してこんなエッチなブラ着けて…♡後で指導が必要だ…っ♡出る…っ♡」

—びゅくっ…♡どぶどぶっ…♡♡

「はぁ…♡はぁ…♡教え子のデカブラをオカズにオナニーするの気持ちよすぎ…♡♡」

射精した後も妄想と右手が止まらない♡

—シコシコ♡♡シコシコ♡♡

ぽよんぽよんと弾むデカパイ…♡あのおっぱいで全身ぱふぱふ包まれて…♡ちゅぱちゅぱ♡って授乳手コキしてもらって…♡
最後はチンポをむぎゅ〜っ♡って挟んでパイズリ♡たぱん♡たぱんっ♡っておっぱいの打ちつけ音聞きながらふっかぁ〜い谷間で幸せぴゅっぴゅ♡
あぁ…♡死ぬほど気持ちいいんだろうなぁ…♡一度でいいから味わいたい…♡

—どぶっっ♡♡♡びゅくっ…♡♡

「あぁ…っ♡病みつきになるう…っ♡」

教え子の着用済みブラジャーをオカズにするという罪悪感が、快楽を何倍にも増幅させる♡

これに味をしめてしまったら、間違いなく普通のオナニーには戻れないだろう…♡♡

「はぁ…♡はぁ…♡…ん？」

机の下に半開きの段ボール箱を見つけた。何が入っているのか覗いてみると…

なんと、そこには箱ぎっしりに詰まったブラジャーがあった♡
置いてあったメモに書いてあったのは…

『私が持ってるありったけのブラジャーを集めました♡たくさん使ってください♡♡by ユウカ♡』

「なっ♡なんで…っ♡なんでこんなところにっ♡大量のユウカのブラジャーがあるんだっ♡しかも使ってくださいって♡ユウカっ♡絶対確信犯だろっ♡♡先生を♡先生をなめてるのかっ♡あいつっ♡♡絶対後でお仕置きしてやるからなっ♡♡くそっ♡くそ…っ♡♡」

——がしっ♡♡ばさあっ…♡♡

段ボール箱からありったけのブラジャーを掴み、顔に押し当てる♡♡ああ…♡♡最高…♡♡
ブラジャーのあつま〜〜〜い♡♡匂いを全身に受け、全力オナニーを始めた♡♡

——シコッ♡♡シコシコ♡♡シコシコッ♡♡

「ユウカ♡♡ユウカのブラジャー♡♡甘くていい匂いっ♡♡たくさんのユウカを独り占めしてるみたい♡♡もっと♡♡もっといっばい味わいたい♡♡」

——がっ♡♡ばさっ♡♡

——シコッ♡♡シコシコ♡♡シコシコ♡♡シコシコッ♡♡

「ユウカっ♡ユウカ好きっ♡ユウカと付き合っ♡♡イチャイチャしたい♡♡おっぱいばふばふしたり太ももむにむにしたい♡♡ドスケベタンクの体独占したい♡♡」

——がしっ♡♡ばさあっ…♡♡ふわあ…♡♡♡

——シコシコ♡♡シコッ♡♡シコシコ♡♡シコシコ♡♡シコッ♡♡シコシコッ♡♡♡

「あっ♡ああっ♡♡ユウカ♡ユウカあ♡気持ちいいよユウカ♡♡ユウカ出るっ♡ユウカのどたぶんおっぱいに♡ユウカのムチムチ太ももに♡ユウカのプリプリデカ尻にっ♡ドロドロザーメンぶっかける♡♡全部♡全部受け止めて…っ♡」

——びゅくっ♡♡びゅるっ♡♡♡♡どびゅるるっ♡♡♡♡

「うっ…♡は…あっ…♡ユウカ…♡♡ユウカ好きい…♡♡」

いつの間にか仰向けになり、ユウカのブラジャーが全身を覆っていた…♡♡
ブラジャーの甘い匂いと精液の匂いが混じった独特な空気が流れている…♡♡

なんともいえない幸福感が全身を包み込む…♡♡

「はあ…♡はあ…♡や、やばい…いくらなんでもちょっとやりすぎた…」

辺り一面をブラジャーが埋め尽くしている中心に半裸の男が寝そべっているこの状況を誰かに見られでもしたら…。
考えただけでもゾツとした。

「は、はやく片付けないと…」

——カツ。カツツ。

我に返った瞬間、足音が聞こえた。

「ふふっ…♡案の定、引っかかってくれましたね先生…♡」

「ユ、ユウカ…!？」

見上げるとそこには前開きの白Yシャツを羽織った下着姿のユウカがいた♡
デカパイがぶるん♡たぶっ♡と大きく揺れている♡♡

「計算通り…♡先生なら絶対に引っかかってくれると思ってました…♡
私の好意に気づいてくれないのが悪いんですよ…?♡」

「な、なっ…!？」

「先生がこの前提出した領収書の店、ネットで検索したんです…♡とっても
いかがわしいお店でした…♡
その店の『ばふばふオプション♡♡』というのがあって…♡下着姿になった
女の子のおっばいに顔をうずめさせてくれるんですよ…♡
領収書にきちんと『P オプ』って書かれていましたの、見ましたよ…?♡」

「し、調べたのか…!？」

「はい…♡やっぱり先生は女の子の下着が大好きなんですね…♡私のブラジ
ャーに全身をうずめておちんちんシコシコ♡♡せーえきどぴゅぴゅ～♡♡って
するくらいですから…♡」

「ぜ、全部見られて…!」

「こうでもしないと先生は振り向いてくれないんですから…♡強行突破です
♡まずは…えいっ♡♡」

——たぶう♡♡もちい…♡♡♡

ユウカにぐっと抱き寄せられ、強引に顔をおっばいに押し付けられる♡♡♡
マシュマロみたいな柔らかい♡♡ふわふわおっばい…♡♡♡
机の上に置かれていたブラジャーよりも強烈な匂いが全身を包み込む♡♡♡

「えっ♡あっ♡♡…おっばい♡♡ユウカのおっばい♡♡教え子デカブラど
たぶんおっばい♡♡♡♡」

一瞬何が起こったか分からなかった♡♡だが、すぐにユウカの強烈なフェロモ
ンに理解^{わか}らされた♡♡

「じゃあ…♡おっばい顔にうずめたまま…たぶたぶしちやいま～す♡♡♡」

乳肉ウェーブ♡♡♡

たぶんたぶん♡♡♡と揺れるおっばいが顔を撫でる♡♡♡

教え子おっばいの極上マッサージ♡♡♡

——ずにゆう～♡たぶっ♡ぐにゅっ♡むにい♡

顔が動いてブラジャーのレースがコリっ♡コリっ♡と当たるのがこそばゆくて
気持ちいい♡

「あぁっ♡夢みたいだっ♡マシュマロおっばいでとろける♡♡ユウカのデカパイで昇天しちゃうっ♡♡」

——たぶう♡♡むにっ♡♡むにい♡♡

「ふ～っ♡♡ふ～っ♡♡もっと…♡♡おっばいもっとお♡♡」

「ふふっ…♡先生、嬉しそう…♡そんなに私のおっばいで興奮しちゃったんですか…？♡」

「でも、まだまだこんなものじゃありませんよ…♡私の気持ちを分かってもらえるまで、今日はたっぷりお時間いただきますね…♡♡」

ユウカが机の上に座り、太ももを軽くポンポンと叩く♡

ニヤニヤした顔でブラを外し、掴んだおっばいを俺の方に向けている♡

これは…間違いない♡授乳♡授乳のサインだっ♡

「ちゅ…ちゅばちゅばするっ♡ユウカの生おっばいじゅるる～♡って吸うっ♡ユウカの甘～いお汁いっぱい飲むっ♡」

「も～先生ったら…♡焦らなくてもおっぱいは逃げませんよ♡はい♡ど～ぞ♡」

——ちゅぱっ♡ちゅぱ♡じゅるっ♡ちゅっ♡

「ママっ♡ママおいしいっ♡♡ユウカママのデカパイちゅーちゅーたまらん♡♡ママっ♡♡ママあ♡」

「やんっ♡先生がっつきすぎですよ♡」

「だってだって♡ユウカママのおっぱい美味しすぎるからっ♡」

——じゅるっ♡ちゅっ♡ちゅぱあ♡♡じゅる♡ちゅぱっ♡

「おっぱいおっぱいおっぱい♡おっぱいすきい♡♡ちゅぱちゅぱ最高なお♡♡もっと♡♡もっと吸うっ♡♡あっ♡♡ああっ♡♡」

——どびゅっ♡♡♡ぶびっ♡♡びゅくっ♡♡♡びゅるっ…♡♡♡♡

「ふぁ…♡あっ…♡」

興奮しすぎてチンポに触ってないのに射精してしまった♡

「あ～♡もしかして先生…♡ズボンの中で射精しちゃったんですかぁ？♡」

「んっ…♡くう…♡」

「気持ちよすぎて聞こえてないじゃないですか…♡じゃあ、確認するのでズボン脱ぎ脱ぎしてくださ～い♡」

ほとんど射精を確信しているしたり顔で俺のズボンをいそいそと脱がすユウカ♡

ズボンに出来たシミの近くですん♡すん♡と精液の臭いを嗅いでいる♡

「うっ…♡くっさあ…っ♡♡」

——ぶるんっ…♡ビキッ…♡ビキ…♡

——どっ…ろお…♡どぶっ…♡ぴゅくっ♡

とんでもない量の精液とガチガチに勃起したチンポがパンツの中から飛び出してきた♡

「ちょっと先生…♡これはどういうことですか？♡」

——ふにっ…♡にぎ…♡にぎ…♡

「あっあっ♡ち、ちがうのお…♡♡ユウカのおっぱいが美味しすぎてえ…♡♡」

「触ってないのに射精して、しかもまた勃起するなんて節操なさすぎです♡そんな先生にはお仕置きが必要です…♡えいっ♡」

——ちゅこっ♡しこしこ♡ちゅこ♡しこしこっ♡ぐちゅっ♡

ユウカのちっちゃくてかわいい手が激しく俺のチンポをしごき始めた♡

「ああっ♡ユウカっ♡射精したばかりなのにそんな激しくしたらっ♡」

「先生が悪いんですよ？♡生徒のおっぱい吸いながらノーハンド射精しちゃうなんて♡」

——ちゅこっ♡ちゅこ♡しこしこっ♡ぐちゅっ♡

——ちゅぱっ♡ちゅぱっ♡ちゅぱ♡じゅるっ♡ちゅっ♡

「あっあっ♡母乳おいっ♡ユウカママのおてても気持ちよすぎてっ♡こんなの我慢できるわけないよお…っ♡」

——ちゅこっ♡しこしこ♡ちゅこ♡しこしこっ♡

——ちゅぱっ♡じゅるっ♡ちゅっ♡ちゅぱあ♡♡じゅる♡ちゅぱっ♡

「ダメです♡いい大人なんですから、ちゃ〜んと我慢してくださいね？♡」

「やだっ♡ママっ♡出るっ♡おっぱいちゅぱちゅぱしながらママのおててにせ
—えき出ちゃうう…っ♡」

—びゅくっ♡どぶっ♡

—どぼっ♡ぶびっ…♡どろお…♡

「あ〜あ…♡ダメって言ったのにこんなに射精しちゃって…♡ワガママなお
こちゃまですねぇ…♡そんなにお仕置きして欲しいんですか…？♡♡ほん
と、いけない子…♡♡♡」

されるがまま、正座したユウカの太ももの上に腰を置き膝上パイズリの姿勢に
なる♡

「さっきはいきなり射精しちゃいましたから…今度は許可するまで射精しち
ゃダメですよ？♡♡」

「えっえっ…♡そんなぁ…♡」

「ふふっ…♡じゃあ、さっそく挟んじゃいます…♡」

—むぎゅっ♡ぎゅむ〜〜っ…♡

「あっあっあっ…♡ちょ、ちょっとユウカ…♡乳圧エグすぎ…♡」

—ガチ…♡ビキ…♡

「あと、これも必要ですよね♡」

片腕でぎゅむっ♡とおっぱいを抱きかかえ、上から谷間にローションを垂らし始めた♡

——とろお～～…っ♡

「よいしょ…っ♡」

——くちゅっ♡ぬちゅっ♡ぬとお…♡ぬりゅっ♡

左右のおっぱいを交互に動かしてまんべんなくローションをなじませるユウカ♡

いやらしい音と亀頭をなぞる弱い刺激が期待感を高める♡

「これで滑りがよくなりましたね…♡じゃあ、早速…♡♡♡」

ニヤニヤ…♡♡♡

——どちゅっ♡だぱっ♡ばちゅん♡どちゅ♡♡だぱんっ♡どぱっ♡♡ぱんっ♡
たぱっ♡♡どちゅっ♡どちゅっ♡♡ずりゅ♡♡♡たぱんっ♡♡♡

「おっ♡♡♡♡♡ユ、ユウカっ！？♡いきなり全力なんて♡♡そんなん♡♡
普通はゆっくり始めるものなんじゃ♡♡あっ♡♡あっあっ♡ダメっ♡♡イクイ
クイクっ♡♡」

——どびゅっ♡♡♡びゅくっ♡♡♡びゅるっ…♡♡♡♡ぶびゅるるるっ
♡♡♡♡♡♡♡♡

まさかの全カスタート♡射精欲が最高速度で駆け上がり、我慢できずに暴発してしまった♡♡

少しでも長くユウカのパイズリを堪能していたかったのに…♡♡

「あっ、あ…っ♡こ、こんな濃いの出るの初めて…♡おっ…♡♡」

「あれ～？♡先生、暴発射精しちゃったんですかぁ？♡許可するまで射精したらダメって言ったのに…♡」

したり顔で意地悪に話しかけてくるユウカ♡♡

「でも、びっくりしちゃってる顔、とってもかわいかったですよ…？♡じゃあ、パイズリはこれでおしまい…♡♡♡」

——ビキ♡♡

「えっ♡♡もう終わりなんてっ♡♡やだっ♡♡もっとユウカのパイズリ味わいたいっ♡♡」

「ダメですよ♡♡だって、許可してもないのに射精しちゃったじゃないですか♡」

——ビキ…♡♡

「お願いお願い♡♡ユウカにパイズリして欲しいっ♡♡」

「じゃあ、今後一切そういうお店に行かないって約束してください♡♡」

——ビキ♡ビキキッ♡♡

「するっ♡♡約束する♡♡もういかがわしいお店なんか行かないからっ♡♡」

「必死になっちゃって…♡かわいい♡♡わかりました、じゃあ特別に2回戦してあげますね…♡♡♡」

——ビキ♡ビキッ…♡♡ビキビキ♡♡ビキッッッッ♡♡

期待感でチンポがはち切れそうだ♡早く…早くあの快感をもう一度味わわせてほしいっ♡♡

「じゃあ…♡精液でドロドロになった谷間を…♡全力で閉じま～す♡」

—どちゅんっっっっ♡♡♡♡♡♡♡

「おっ…♡」

すさまじい乳圧に腰が浮いた♡さっきの全力パイズリがフラッシュバックしてきて、我慢汁が大量にあふれ出す♡♡♡

—ぶびっ…♡ぶびゅっ♡♡♡♡

「精液だけじゃなくて我慢汁まで…♡ローションなんてもう必要ないですね♡じゃあ、2回戦開始～♡」

—ぱんっ♡♡だぱんっ♡♡ぱちゅっ♡♡たぱっ♡♡♡ぱちゅん♡♡♡ぱちゅ♡♡ぱんっ♡♡♡

「えいっ♡えいっ♡」

—どちゅっ♡ぱちゅっ♡♡ずりゅっ♡だぱっ…♡♡ぱんっ♡♡♡たぱんっ♡♡♡ぱんっ♡

「上からぎゅむ♡って押さえつけるシンプルズリ～♡」

—ぱちゅ♡だぱっ♡ぱちゅっ♡♡ぱんっ♡♡♡たぱんっ♡♡♡ぱん♡ぱんっ♡

「カリ首にまんべんなく刺激を与える左右互い違いズリ～♡」

—ずりゅっ♡♡たぱっ♡♡ずりゅ♡♡♡ぱちゅっ♡♡♡どぱっ♡♡ぱんっ♡♡♡

「両側から腕でぎゅむっ♡って挟んで上下に動かすノーハンドズリ～♡」

—だぱっ♡だぱんっ…♡どぱっ♡♡ぱんっ♡たぱっ♡♡たぱんっ♡♡♡ぱちゅっ♡♡♡

「おっ♡まるでパイズリ博覧会っ♡こんなの耐えられるわけないのにい♡♡♡」

「私にかかればこれくらいお手の物です♡さあさあ、どんどん行きますよ～♡」

——ぱんっ♡♡だぱんっ♡♡ぱちゅっ♡♡たぱっ♡♡♡ぱちゅん♡♡♡ぱちゅ♡♡ぱんっ♡♡♡

「あっ♡ユウカ好きっ♡またイクっ♡イツちゃうっ♡」

——びたっ…♡

ユウカは射精直前にパイズリをやめた♡まるで俺の射精タイミングを完璧に計算していたかのように♡♡

「えっえっ♡なんで止めるのっ♡おちんちん寂しいよお♡」

「先生…♡まだ私に謝らないといけないことがあるんじゃないですか…？♡♡」

ユウカがニヤニヤしながら問いかけてくる♡

「な…っ！？な、なんだそれはっ♡♡そんなものはないっ♡♡」

ユウカをいつもいやらしい目で見ていることだと一瞬で理解した♡♡…だが、全力で否定した！
ここまでやられっぱなしだった俺にも、先生としての矜持がほんの1mmだけ残っていたから！
情けないと分かっているけど、抗うことを選択したのだ！

「正直に言った方が楽になれますよ？♡♡」

「ふ、ふん…っ♡ないと言ってるだろ…っ♡」

ここで屈するわけにはいかない。教育者として、少女たちを正しい道に導く先導者としての自覚を保つための最後の砦を失うわけにはいかないから！

「ここまでされたんだから言っても同じです♡♡早く言っちゃいましょう？せんせい♡」

「ぐっ…♡こ、このっ…♡」

答えが何か分かっているくせにいじわる顔で問い詰めてくるユウカ♡
扇情的な表情が決意を揺るがせる…♡

「言ってくれたら～♡このドスケベおっぱいのパイズリ再開してどぴゅぴゅ♡
びゅるるう～♡って最高に気持ちいい射精♡させてあげます♡♡」

「な、なにっ…♡」

——どたぶんっ♡むちい…♡ぶるんっ♡♡♡

今、ここで言えば…♡このどたぶんおっぱいで最高の射精をさせてもらえる…♡

「ほら、早く早く～♡謝らないといけないこと、ありますよね？♡」

「な、ない…っ♡」

——ぶるん…っ♡どたぶっ…♡ゆさっ…♡♡

「ありますよね？♡♡」

「ふ～っ…♡な、ないって…っ♡」

——むにゅ…♡♡にゅむっ♡♡♡ふにい…♡ぎゅむう♡♡

「ありますよね？♡♡♡」

「ふ～っ…♡ふ～っ…♡な、ない♡ないないっ…♡あるわけないっ♡♡」

——どたぶんっ♡むぎゅっ♡♡ぶるんっ♡♡♡♡むちいっ♡♡♡♡

「最後のチャンスです…♡ありますよね、せ・ん・せ・い♡」

——ぎゅむっっ♡♡ぎゅ~~~~~っっ♡♡♡♡♡

——プツンッ。

「あ、ありますう♡♡♡実は♡♡ユウカのこといつもエッチな目で見てました♡♡ユウカの長乳ドスケベおっぱい♡ユウカのムチムチぶっとい太もも♡ユウカのプリプリもちもちデカ尻も♡全部全部いやらしい目で見てましたあ♡ごめっ♡ごめんなさい♡♡もうっ♡もう絶対見ないから許してええ♡♡♡」

「あはっ♡全部言っちゃいましたね♡いい大人がそんな恥ずかしいこと♡♡いいですよ♡ぜ〜んぶ許してあげます♡♡♡」

——ぱんっ♡だぱんっ♡どぱっ♡♡ぱちゅんっ♡♡たぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ずりゅ♡♡♡ぐちゅっ♡♡たぱんっ♡♡♡ぱちゅんっ♡♡ぬちゅっ♡♡どぱっ…♡♡ぱちゅん♡♡

「でも…♡これからも見てもいいですよ？♡♡今までみたいに♡汗だく体操着から透けてるブラを見たり♡♡パンツスーツのパン線凝視したり♡ペンを拾おうと前かがみになった時にしれっとパンツ覗こうとしたり♡重すぎて机の上にむにゅん♡って置いて休ませてたドスケベ長乳どたぶんおっぱいチラ見したり♡パツパツYシャツの隙間から見えるふっかあ〜い♡谷間に鼻息荒くしても♡♡ぜ〜んぶ♡♡許してあげますから♡♡」

「えっ♡♡なんでっ♡♡全部…そんなことまでバレてっ♡♡あっ♡♡あっあっ♡♡」

——ぱちゅんっ♡♡だぱっ♡だぱんっ♡ぐちゅっ♡♡どぱっ♡♡ぱんっ♡たぱんっ…♡♡♡どぱっ♡♡ぬちゅっ♡♡ずりゅ♡♡たぱんっ♡♡ぱちゅん♡♡

「なっ…♡ま、まさか…♡シャワールームを増設したのは…♡徹夜作業に対応するためじゃなくて…♡射精後の処理をするためだったのっ♡♡」

「はい♡先生の精液で汚されちゃった後もすぐに洗えるようにしないとですから…♡

それじゃあ、行きましょうか、先生…♡」

してやっつりのドヤ顔で俺を見るユウカ♡

「ぐっ…♡こ、このドスケベタンク…っ♡」

シャワールームに着いた時には再びチンポがフル勃起していたことは言うまでもない。

——ギン…♡♡ギンッ…♡♡

「先生ったら…♡♡さっきあんなに私のおっぱいで射精したのに、またこんなにおちんぼギンギンにしちゃって…♡」

「うっ、うるさいっ♡ユウカが悪いんだっ♡♡あんなに俺のことおちよくって…っ♡」

「おちよくってなんてないですよ～♡♡事実を述べたまでです♡♡そんなことより、もうそろそろ仕事に戻らないといけませんから、体洗いますよ？♡♡」

——シャアアアア…

「ほら、洗いますからじっとしててください…キャッ!？」

ドサッ！

俺は強引にユウカを ^{ひざまず} 跪かせ、おっぱいを両側からぎゅ〜〜っ♡と寄せて作った乳穴にギンギンにそり立ったチンポをあてがう♡

——ぴとっ…♡みち…♡♡みちっ…♡♡

「ハア…♡♡ハア…♡♡ユウカが悪いんだ…っ♡♡ユウカがこんなにドスケベだから…♡♡俺は悪くない…っ♡♡」

——ずぶんっっっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

本能のまま、ガチガチのチンポをズリ穴にぶちこむ♡♡♡

「おっ♡♡な、なんだこれ…♡♡どたぶん乳肉気持ちよすぎ…っ♡♡」

——どちゅ♡♡どちゅっ♡♡ぱちゅんっ♡♡たぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ぐちゅっ♡♡どちゅっ♡♡ずりゅう♡♡

「あっ♡♡は…っ♡♡今、ユウカのおっぱい犯してるっ♡♡先生なのにつ♡♡教え子と縦パイズリエッチしてるっ♡♡」

「あ〜あ…♡いきなりかわいい生徒のおっぱいレイプしちゃうなんて…♡先生、最低…♡♡」

ニヤニヤしながらからかってくるユウカ♡♡
精液とシャワーの温水が乳内で混じってなんとも言えない快感に包まれていく♡

「うるさいうるさいうるさいっ♡♡♡こんなけしからんデカパイで我慢できるわけないだろっ…♡♡」

——ぱちゅんっ♡♡だぱっ♡どちゅっ♡♡だぱんっ♡ぐちゅっ♡♡どぱっ♡♡ぱんっ♡どちゅんっ…♡♡♡

「やんっ♡♡先生ったら激しい…♡♡そういう男らしいところも好きですよ♡♡」

反抗するように挿入を速める♡ぬちゅっ♡ぬりゅっ♡♡といやらしい水音が大きくなっていく♡

「また大人をからかって…っ♡お仕置きだ…♡♡俺が満足するまでおっぱい犯してやる…っ♡♡」

——たばんっ♡♡どちゅっ♡♡ぱちゅんっ♡♡ぱんっ♡♡ぐちゅっ♡♡どちゅっ♡♡だばっ♡♡どちゅん♡♡どぱっ♡♡

「先生、必死に腰振っててかわいい♡う～ん、でも私は手持ち無沙汰ですねえ…♡あ、そうだ♡せっかくなので、ズリキチ先生が喜びそうなエッチなシチュエーション、想像してたくさん言ってあげます♡」

「な、なっ…！？どういうことだっ…♡」

「これからも私とエッチなこと…したいですよ？♡私がしたら先生興奮するだろうな～♡ってシチュ、私たくさん思いついてるんですよ♡それをこれから発表しちゃいます♡」

「ふ、ふんっ…♡そ、そんなもの…♡♡言われたところで別にどうということはない…っ♡♡」

「ふふっ、強がっちゃって…♡分かりました♡じゃあ、これから言うことは独り言ですから、気にしないでくださいね♡」

——どちゅっ♡♡ぱちゅんっ♡♡ずりゅう♡♡だばっ♡♡だばんっ♡♡ぐちゅっ♡♡どちゅ♡♡どぱっ♡♡ぱんっ♡♡どちゅんっ♡♡♡

「先生が好きそうなシチュエーション…♡王道なのはセミナーの生徒会室でこっそりパイズリエッチですかね…♡向かいの席に座っているノアに隠れて机の下でずり♡ずり♡ってしたりとか…♡ 死角に移動してぱちゅん♡ぱちゅん♡ってパツパツYシャツの隙間からガチガチ勃起おちんぽ出し入れしてたらノアが『先生？何か物音がしますが大丈夫ですか？』とか聞いてきたりして

♡先生が慌てて『な、なんでもない！ちょっと物を落とすただけだから！』って言うてる時に腰をガシッ♡って掴んで強制的に縦パイズリ続行させちゃったり♡『ユウカダメっ♡声出ちゃうからあ♡』って困りながら腰振り続行しちゃう先生見たいです♡ あっ、ノアがトイレに行ったと同時にYシャツのボタンを開けて胸元くばあ…♡って先生を誘惑しちゃうのもいいですね♡『ふーっ♡ふーっ♡』って言いながらもものすごい勢いで床に押し倒されて…♡ノアが戻ってくるまでに急いで射精しないとイケないからいつも以上に激しくどちゅん♡ずちゅんっ♡っておっぱい突いちゃう先生もかわいいかも…♡ びゅくっ♡びゅるう～♡って射精した谷間に残った精液そのままにさせて♡♡ドロッドロの精液溜め込んで『ふっ…♡ふう…♡』って息荒くしたまま会計の仕事しないといけなくなったら大変かも…♡」

「ハッ…♡ハア…♡♡」

——ぱんっ♡だぱんっ♡どぱっ♡♡ぱちゅんっ♡♡たぱんっ♡♡ぱんっ♡♡ずりゅ♡♡♡ぐちゅっ♡♡ぱちゅん♡♡たぱんっ♡♡♡ぱちゅんっ♡♡ぬちゅっ♡♡どぱっ…♡♡

「もし先生とお付き合いすることになったら…♡デパートでデート中、胸元全開の白ワンピースを着て周囲の男性からいやらしい視線を集めちゃう私を守るように多目的トイレに連れ込まれて♡男らしくて素敵…♡って思ってたなら『ユウカがエロいのが悪いんだ…っ♡』なんて最低なこと言いながら谷間の一番ふっかあ～い♡場所目がけてどちゅ♡どちゅん♡ってチンポガン突きする先生♡帰ってオナニーするしかない男の人たちを尻目に優越感たっぷりパイズリエッチしちゃうんですよね♡ 夏に備えて水着の試着してたら『どうですか？♡先生♡』ってカーテン開けたとたんに試着室に押し入られて速攻膝立ちパイズリ開始♡おっぱい両側からむにゅ～♡って掴まれてたぱっ♡たぱんっ♡おっぱいオナホにされちゃう♡店内なのに『おっ♡ユウカの長乳オナホ最高♡』って叫んじゃう先生かわいいです♡精液かからないように谷間ぎゅ～♡って狭くしてたのにびゅくっっ♡♡びゅっっっ♡♡って飛び散っちゃって水着ドロドロにしちゃって…♡カーテン開けたら店員と客から訝しげに見られちゃって、そそくさと水着だけ買って逃げる♡♡ 帰り道も我慢できずに路地裏に連れ込まれていきなりペロチュー開始♡♡『ちゅう…♡ちゅぱっ…♡あんっ…♡』って服にシワできるまでおっぱい揉みこまれながらディープキスされて…♡勃起したおちんぽを大きめのストロークでたぱん…♡たぱんっ…♡って甘やかしながらゆっくり気持ちよくしてあげる♡♡デートの終わ

りを名残惜しむかのようにたっぷり時間を使って…♡最後はパイズリキスしながらの幸せぴゅっぴゅ…♡最後に『…まだパイズリしてほしいんですか？♡もう、先生ったら…♡また明日もいっぱい挟んであげますから我慢してください♡』って言って解散♡」

「ハア…♡♡ハア…ツ♡♡ハッ…♡」

——だばんっ♡ばちゅんっ♡♡たばんっ♡♡ぱんっ♡♡どぼっ♡♡ずりゅう♡♡たばんっ♡♡ずりゅ♡♡♡どぼっ♡♡ぐちゅっ♡♡たばんっ♡♡♡ばちゅんっ♡♡ぬちゅっ♡♡ばちゅん♡♡

「交際が順調に進んだら…♡イチャラブ同棲の始まり♡仕事から帰ってきた先生を玄関でおっぱいぶるんっ♡って揺らしながら裸エプロンでお出迎え♡『おかえりなさい♡』って言った瞬間に押し倒されて裸エプロンビリビリに破いてズリ穴作られて♡仕事で疲れてるはずなのに全力でぱちゅん♡ばちゅんっ♡って腰振る先生♡びゅくびゅく～♡どぶどぶ～♡って疲れマラをちゃっかり解消して…♡『もう♡また新しいエプロン買わないといけないじゃないですか…♡』って困らされちゃってるのにリビングに連れていかれてすぐに膝上パイズリ開始♡ここから1時間くらいずっとだっばん♡どびゅ～♡たばんっ♡びゅるる～♡の繰り返し♡ひとしきり落ち着いてご飯の準備をした私のエッチな体見てムラムラ♡しちゃった先生がお尻に硬いのぐりっ♡ぐりっ…♡って押し当てながらどたぶんおっぱいむにい♡むにゅっ♡ぐにゅ～っ♡って揉みしだく♡『やっ…♡あん…♡』って喘ぎ声出してる私に興奮した先生がおまんこにおちんぼ擦りつけながら『んちゅ…♡じゅるっ…♡んっ…♡ちゅば…♡んう…♡』って濃厚ディープキスしちゃう♡お股で射精しちゃった先生がおもむろにドスケベ白マイクロビキニをクローゼットから取り出してきたらそれは長乳グラビア撮影会開始の合図♡どたぶんっ♡って胸元強調したポーズを『ふ～っ♡ふ～っ♡』って鼻息荒くした先生にいろ～んな角度からたくさん撮られて…♡精子ギュンギュン♡って急速製造完了♡そしたら後は力尽きるまでパイズリエッチ…♡朝目覚めたら2人一緒にシャワーを浴びて…♡当たり前のように勃起した先生のチンポにローションたっぷりつけて朝ズリしてあげる♡♡ローションつけすぎてなかなか洗い落とせずに遅刻しそうになったりして…♡仕事&登校に支障が出そうになる毎日なんだろうなあ…♡ここまできたら結婚まであともう少し…♡♡♡」

「ふーっ♡♡ふんっ♡♡ふっ♡♡♡ふうーっ♡♡ふっ♡♡♡ふーっ♡♡♡♡」

——どばっ♡♡だばんっ♡ぱんっ♡ぱちゅんっ♡♡ずりゅ♡♡♡たぱんっ♡♡
ぱんっ♡♡ぐちゅっ♡♡たぱんっ♡♡♡ぱちゅん♡♡ぱちゅんっ♡♡ぬちゅっ
♡♡どばっ…♡♡

「くすっ♡先生ったら、そんなに鼻息荒くしちゃって…♡ただの独り言なの
に…♡やっぱりこういうシチュ、大好きなんですわね…♡」

「くっ♡くそっ♡♡そんなエロシチュ聞かされて興奮しないやついないだろっ
♡♡♡ドスケベ…♡ドスケベタンクがっ♡♡全部♡全部したいに決まってる
っ♡♡だから♡だからあっ♡♡ユウカ♡俺と付き合ってくれっ♡いや、付き合
うだけじゃダメだ♡結婚…♡結婚してっ♡ドスケベ妻の長乳どたぶん独り占
めさせてくれっ♡それで…♡さっき言ったシチュ、全部やらせてくれえええ
っ♡♡」

——ぱんっ♡だばんっ♡ずりゅっ♡♡どばっ♡♡ぱちゅんっ♡♡たぱんっ…
♡♡ぱんっ♡♡ずりゅ♡♡♡ぐちゅっ♡♡たぱんっ♡♡♡ぱちゅん♡♡ぱちゅ
んっ♡♡ぬちゅっ♡♡どばっ…♡♡ぱんっ♡♡ずりゅ♡♡♡ぐちゅっ♡♡た
ぱんっ♡♡♡ぱちゅんっっっっ♡♡♡♡♡♡

「わあ…♡こんなところでプロポーズなんて♡♡大胆ですね、先生♡♡もち
ろんです♡♡だから先生♡♡♡将来奥さんになる予定の女の子のLカップ

118cm どたぶんおっぱいに♡♡ウェディング^{ザーメン}精液たっくさ～ん^{なかだし}乳内射精して
ください…♡♡♡♡♡」

「出すっ♡♡全部出すっ♡♡ユウカの…♡♡嫁の♡♡♡ドスケベおっぱいマ
ンコに全力種付けするっ♡♡全部受け止めろユウカっ♡♡孕めっ♡♡孕めええ
えっっっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

——どびゅっ♡♡♡♡びゆるっ♡♡♡♡ぶびゆるるるるっ♡♡♡♡♡♡びゆる
うっ♡♡♡どぶっ…♡♡♡♡びゅくっ♡♡ぶびゅっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
びゆるるっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「かは…っ♡あ…♡♡」

—ぼびゅっ…♡♡♡♡♡♡びゅくう…♡♡どびゅっ♡♡♡ぶびゅびゅ
っ…♡♡♡♡ぶびゅるる♡♡♡♡♡びゅるるっ…♡♡♡♡♡♡♡♡

「計算通り♡やっぱり先生は我慢できませんでしたね…♡♡」

「おっ…♡ど、どういうことだ…っ♡♡あ…♡♡♡」

「シャワールームに連れ込んだ時点で強引に襲ってくることは分かってましたから…♡♡さっきは私から仕掛けましたけど…今度はちゃ〜んと『自分から教え子おっばいをばちゅばちゅ犯してあまつさえプロポーズまでしちゃった記録♡♡♡』残させていただきました♡♡」

ユウカはシャワールームの角に設置されたカメラを指差す♡

「なっ…♡♡ぜ、全部撮られて…っ♡♡♡♡」

「もうこれで先生は私のものです…♡しかもプロポーズまでされちゃいましたし…♡まさかないとは思いますが…いかがわしいお店や他の生徒による見なんてしたら、どうなるか分かってますよね♡先生…♡♡♡」

「あっ…♡♡あ…………♡♡♡」

ユウカの完璧な計算に、完敗(完勝?)した朝の話。

終